

# SUZUKA UNIVERSITY LIBRARY NEWS

2025 年度  
12月号



こんにちは！ 附属図書館です。



2025 年も残りわずかとなりました。皆さん、どんな1年でしたか？  
師走になると、なぜだか慌ただしくなりますよね。  
クリスマス・お正月とイベントも続きますが、暖かい部屋で読書をして、ゆったりとところを休ませてあげませんか？  
お休みのあいだに、長い本に挑戦してみるのもいいですね。

## \* 展示 \*

手作り絵本



多言語の読み聞かせ  
絵本



地域・世界・未来  
と  
つながる

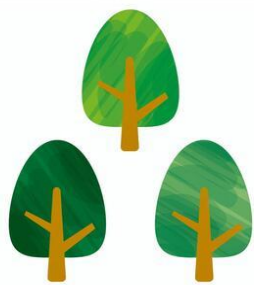


1F 絵本スペース 新設♪

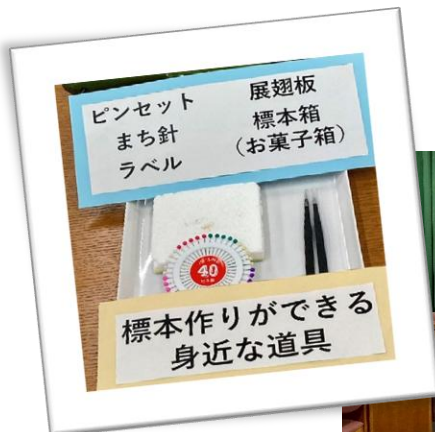
## [12月展示]

こども教育学部

奥村先生



テーマ・・・虫



- ・チョウ目アワヤトウ
- ・ハチ目カリヤサムライコマユバチの動画が紹介されています。



「癌」に関する展示もしています





## LiLiCo: 外ト・映画コメンター おすすめ本

### 『妖怪バリアーをやっつけろ！』

三島亜紀子 文・三島エツコ 絵・平下耕三 監修 / 生活書院



1970年スウェーデン生まれ。18歳で来日、1989年から芸能活動スタート。TBS『王様のブランチ』に映画コメンターとして出演、J-WAVE『ALL GOOD FRIDAY』など出演番組も多数。声優、ナレーション、俳優、ファッションアイテムのプロデュースなどマルチに活躍。

実話に基づいているこの絵本を開いた瞬間から、このテーマを伝えるやり方と可愛い絵に魅了されました。障害がある兄弟が社会のバリアに立ち向かうことを“妖怪バリアー”という形をとって、陽気に、そして力強く描いています。こうした魅力的なキャラクターを描いて、そして楽しくわかりやすく読者へ教えてくれるのは大切なこと。

大人が読みながらお子さんともコミュニケーションが持てるのと、想像を働かせるのには完璧過ぎるツールにもなる本。例えば、黄色い点字タイトルに自転車を止めようとする男性の行動を「これどうしたらいいと思う？」と先に聞いたり、ヤスユキとコウゾウが妖怪バリアーに立ち向かう前にみんなが先に考える力にもなる。言葉の選び方も陽気で、ヤスユキとコウゾウは勇気を持って強く闘うことの大切さを教えてくれている一冊。

#### メッセージ

ヤスユキとコウゾウから学ぶことはたくさんあります。

みんなにとっての“普通”は人によってはとても困難。自分にいつ何が起ころのかはわかりません。他人事と思わずに、もし下に兄弟がいたらこの本でコミュニケーションをとってほしい。若いときから他人への思いやりを持つことは何よりの心の宝もの。障害がある方と最初はどうか接したらいいのか気を遣ってしまうかもしれないけど、こうした本から、どんな風に社会のバリアを無くすのかをちゃんと自分で考えられる人になります。どんどん広めて、そして読んだときの気持ちを忘れないことが何よりも大事。大人の方へのあとがきも理解出来る年齢です。強さの向こう側にある切なさも感じ取れるはず。

まずは心のバリアを無くそう！

# 『カミングアウト』

朝日新聞出版社 / 砂川秀樹



こども教育学部 教授 / 川又 俊則

紹介者は、異性愛者（ヘテロセクシュアル）、性自認が一致している人（シスジェンダー）が多数派（マジョリティ）の世界のなかで、少数派（マイノリティ）の実態を理解することは重要なことだと考えている。

性的マイノリティの性的志向・性自認を他に伝える「カミングアウト」を、大きな決心がなくてもでき、それを衝撃なく受け入れられる社会になることを願って、ゲイを公表している文化人類学者が本書を執筆した。

ゲイやレズビアンのカミングアウトストーリーがいくつも収録され、そこでは、本人の感情の動揺や家族との深い葛藤が描かれている。「出会う」「共有する」「向き合う」「ともに変わる」という章題には、カミングアウトを通じて、本人と伝えられた家族・友人の変化の意味が込められている。

伝えられるまで気づいていなかった親や、一度、離れてしまった関係が修復するなど、様々なケースが示されている。セクシュアリティの基本的知識や統計データの解説も丁寧に記述され、本人の許可なく他者に性的志向を曝露するアウティングの問題にも触れている。

LGBTQ+について、このテーマのコンテンツ（映画やテレビドラマ、小説、漫画、アニメ、音楽など）は、広く見聞きできる。性的マイノリティを包括的に表すクィア（Queer）という言葉もあり、クィア研究も見られる。

紹介者自身は、性の多様性を表現するよりフラットな用語 SOGI（Sexual Orientation Gender Identity＝性的志向・性自認）を授業で学生に伝えている。

いずれにしても、多様な私たちの全てのアイデンティティは等しく尊重されるべきだとの筆者の主張に同意する。筆者が編集した『カミングアウト・レターズ』（2007、太郎次郎社エディタス）の事例も興味深い。

本学図書館には性の多様性に関する書籍が多く配架されている。広く人々に読んでもらいたい。

## \*お知らせ\*

12/27(土)～1月4日(日) まで 休館となります。

